

＜孤読化＞する学生の読書行動：新潟大学卒業生調査から

教育人間科学部 藤村正司

A Survey of the Reading Behavior of Graduates in Niigata University

Masashi Fujimura (Faculty of Education and Human Sciences)

Abstract

In 1991 the Standard for the Establishing a University were revised to abolish the distinction between general and specialized education in response to a report of the University Council. Since then, universities have been struggled with how to organize general education system. But, general education is not achieved only through the formal curriculum reform, but through reading behavior of students. The purpose of this survey is to investigate the relationship between the reading behavior and reference groups of the period of graduate's attendance at Niigata University. Surveys are designed to mirror the reading behavior of their schooldays and that of now. Main finding is that the reason why young generation does not read books depends on a matter of individual taste of their generation, but at the same time reference group to read books among them died out of itself. So university teachers should not only guide reading book list, but also organize reference groups to cultivate the habit and method to read.

Keywords : *reading behavior, general education, reference group*

はじめに

1991年の設置基準改訂を機に本格化した一連の大学改革の中で、教養教育のあり方、とりわけ教養部の廃止と連動したカリキュラム改革が、10年以上にわたって問題になっている。大学生の「学力低下」という大学の 대중化にとって避けて通れない課題を前に、教養教育のあり方や新たなカリキュラムの模索が進められている。しかし、教養の形成は大学のフォーマルなカリキュラム編成だけで培われるものではなく、学業以外の読書によるところが大きいことは言うまでもない

本調査では、新潟大学学生および卒業生の在学時の読書行動に焦点化し、多様な学生生活のなかで読書がどのように位置づけられているのか検討する。学生の読書離れが指摘されて久しいが、それは学生の生活スタイルの変化から読書する集団の喪失によるところが大きいことなどを指摘する。

本調査は、平成14年度新潟大学教養教育実施委員会経費「新潟大学生の読書行動の実態と育成」を受け、新潟大学を卒業者の、在学中及び現在の読書について調査したものである。この卒業生調査は、同窓会事務局の協力を得て「同窓会名簿」を台帳として無作為抽出により実施した。配布数は、1,000人。回収数は471人、回収率47.1%であった。回答者の学部構成は、人・法・経学部122人、教育学部101人、工学部83人、農

学部、89人、医学部76人。年齢構成は、20代36人、30代64人、40代71人、50代111人、60代以上189人となり、高齢者に偏ったサンプルとなっている。なお、理学部卒業生については、学部全体の同窓会名簿が存在しないため、調査を見送った。調査を通して、本学の教養教育及び学生への読書指導のあり方を考える上での手掛かりが得られることを願っている。

1. 現役学生と卒業生の読書行動

まず、現役学生の読書実態について、平成14年度に実施された新潟大学学生生活実態調査に読書項目からみておこう（表1参照）。院生を含む新潟大学学生の読書量は、1カ月で「1～4冊」が全体の6割を占めるが、気になるのは本を1カ月に1冊も読まない学生が3割近くになっていることである。本をコンスタントに読む学生と、まったく読まない学生に分離していることがわかる。結果は示さないが、図書館の利用頻度と読書量の関係を見ると、本を1冊も読まない学生の4割以上は、図書館もほとんど利用していない。このことは、あらためて学生の活字離れを裏づけるものであるが、この分布は学年によって差はなく、表1にみるように性差がある。読書は、女子学生の方が積極的である。男子学生の3人に一人は、1カ月に本を一冊も読んでいない。

表1 1カ月の読書数：性別 %

	男 子	女 子	全 体
1 - 4 冊	55.4	64.5	59.1
5 - 9 冊	8.2	8.8	8.4
10 冊 以 上	3.1	3.5	3.3
読 ま な い	33.3	23.2	29.2
	834(100)	543(100)	1,377(100)

『平成14年度 新潟大学学生生活実態調査』より

それでは、学生はどんな本を読んでいるのか。表2は、読書のジャンルを示したものである。読書好きの学生は、「日本文学」（小説）や「一般娯楽」雑誌を読んでいることがわかる。ここで、読書ジャンルの変化をみるために卒業生のそれと比べてみよう。卒業生アンケートから、卒業生の年齢を20・30代、40・50代、60代以上の3区分でみると、読書のジャンルには20・30代以下とそれ以上では世代間で読書傾向に大きな溝のあることがわかる。この沈黙の溝を埋めるのが、すぐあとでみる電化製品である。13ジャンルのうち、20・30代以下の若い世代がそれ以上の世代よりも在学時に比較的によく読んだというジャンルは、趣味娯楽とマンガである。若い世代の読書ジャンルは、現役学生と連続性がある。60代以上については、出版事情は昭和40年代とでは大きく異なるので単純な比較はできないが、世代間の教養の差は明らかである。教養書＝人格の完成は、昔の話である。新たな教養概念が模索されるのは、制度の変革のみならず、こうした読書ジャンルの変化が背景にある。

表2 読書のジャンル：性別 %

	男 子	女 子	全 体
日 本 文 学	21.5	45.1	31
外 国 文 学	4.3	7.8	5.7
歴 史 ・ 紀 行	10.4	3.2	7.5
思 想 ・ 哲 学	4.5	2.6	3.7
語 学 ・ 言 語	2	2.2	2.1
美 術	0.5	1.7	1
一 般 科 学	14	4.3	10.1
医 学	5.4	4.3	5
音 楽	3.1	2.6	2.9
コ ン ピ ュ ー タ	6.8	0.4	4.2
数 学	2	0	1.2
ス ポ ー ツ	3.8	5	5.4
法 律 ・ 経 済	3.8	5	4.3
一 般 娯 楽	13.2	20	15.9
	100%	100%	100%

『平成14年度 新潟大学学生生活実態調査』より

表3 卒業生が在学時代によく読んだ本 %

	20・30代	40・50代	60代以上
日 本 文 学	28.6	50.3	55.9
外 国 文 学	12.2	34.8	36.6
思 想 書	19.8	52.8	57.1
歴 史 小 説	21.6	37.9	42.1
推 理 小 説	26.5	35.2	20.7
S F	18.6	21.8	6.3
ノンフィクション	36.1	41	37.1
マ ン ガ	44.9	26.4	2.2
ビ ジ ネ ス 書	10.1	5.6	12.3
専 門 書	69.8	80.2	83.6
趣 味 娯 楽	51.5	33.1	30.4
教 養 書	34.7	66.3	64.3
論 壇	3.1	19.1	33.2
N	98	179	184

「よく読んだ」+「どちらかといえば読んだ」の比率

表4 現役学生の現在の学生生活（学部生） %

	第一選択	第二選択
勉 強 や 研 究 が 第 一	42	2.3
ク ラ ブ ・ サ ー ク ル	14.7	8.3
趣 味 （ 読 書 な ど ）	12.4	15.7
友 人	8.2	32.8
資 格 取 得	0.6	3.3
ア ル バ イ ト	1.8	8.1
特 に 重 点 な し	16.2	10.6
な ン と な く 過 ぎ て い く	0.3	17.3

2. 学生生活のなかの読書

言うまでもなく、読書は学生生活の一部である。以下では、読書が学生生活のなかでどのように位置づけられているかみておきたい。学生生活実態調査からみると、学部生は「勉強や研究に第一をおいた生活」と「良き友人を得たり、豊かな人間関係を結ぶことが第一」を選択している。表4では、読書は趣味の項目の一つに含まれているので、表5の学業以外の過ごし方を複数回答でみると、「音楽を聴く」、「テレビ・ビデオ」、「友人とおしゃべり」をして過ごす上位にあり、読書は4番目以降である。実際、学生生活（院生を含む）の小道具である電化製品などの所有率は、CD・MDが95.5%、携帯電話は94.7%、テレビは91.1%、パソコンは85.8%、ビデオ・DVDは85.5%、家庭用ゲーム機は57%。いずれも高い所有率を示している。こうした電化製品なしに現在の学生生活は送れない。自動車所有率は40%にのぼる。かつての贅沢品が、現在では必需品になっているのだが、個人で楽しめる消費型の生活グッズが支配的だといえる。同じ活字といっても、本の活字よ

りもディスプレイ上の活字に慣れ親しんでいるといえる。

それでは、こうした現役学生の個人消費型の生活スタイルは、読書行動とどのような関係になっているのか。この点を考える上で有益な示唆を与えるのは、読書行動に与えるレファレンス・グループの役割を重視した粒来の調査である（粒来：1999）。粒来は、東工大と京大の理学部生を対象とした読書調査から、読書離れには学生の人間関係の希薄化による読書スタイルの変化があることを指摘している。

表5 学業以外の過ごし方（学部生） 数値%

第1選択	第2選択	第3選択
1.音楽を聴く(24.7)	1.テレビ・ビデオ(27.1)	1.友人とおしゃべり(21.0)
2.テレビ・ビデオ(16.4)	2.ショッピング(11.5)	2.ぼんやりと(19.2)
3.スポーツ(13.0)	3.パソコン(10.0)	3.パソコン(11.5)
4.読書(12.4)	4.読書(8.5)	4.散歩(10.4)
5.旅行(5.7)	5.ぼんやりと(7.4)	5.その他(8.5)

ここでは文系、医歯系を含めた新潟大学卒業生調査によって、在学時の友人関係と読書スタイルの変化を世代別に探ってみたい。この関係が明らかになれば、学生時代の読書は「孤独な読書」を越えた、レファレンス・グループのなかの開放的・競争的な読書体験を通じて獲得されていたという仮説が実証できるであろう。

表6 在学中、熱心に取り組んだもの：因子分析

20・30代			
	卒論・ゼミ	一般教養科目	友人・部活
語学の授業	0.021	0.818	0.083
一般教養科目	0.145	0.868	-0.071
専門の授業	0.584	0.591	0.073
専門ゼミ	0.843	0.265	0.109
卒論執筆	0.88	0.04	-0.074
読書	0.37	0.091	-0.445
部活・スポーツ	-0.74	0.14	0.752
文系サークル	0.247	-0.019	-0.365
友人との交際	0.255	-0.13	0.682
アルバイト	0.195	-0.371	0.208
自治会活動	-0.112	0.046	0.231
40・50代			
	教養・語学	卒論・ゼミ	友人・読書
語学の授業	0.779	-0.005	-0.002
一般教養科目	0.799	0.174	0.066
専門の授業	0.619	0.34	-0.006
専門ゼミ	0.183	0.834	-0.011
卒論執筆	0.142	0.877	-0.066
読書	0.268	-0.148	0.619
部活・スポーツ	-0.169	-0.147	0.171

文系サークル	-0.02	0.036	0.396
友人との交際	-0.123	-0.003	0.783
アルバイト	-0.064	0.355	0.516
自治会活動	-0.394	0.324	0.068

60代以上			
	専門・卒論	教養・読書	自治会
語学の授業	0.188	0.67	-0.086
一般教養科目	0.236	0.703	-0.142
専門の授業	0.669	0.289	-0.016
専門ゼミ	0.848	0.145	-0.063
卒論執筆	0.866	0.035	0.159
読書	0.009	0.646	0.346
部活・スポーツ	-0.038	-0.28	-0.377
文系サークル	0.117	0.068	0.76
友人との交際	-0.03	0.053	0.218
アルバイト	0.021	0.019	0.044
自治会活動	-0.051	-0.102	0.706

表6は、読書行動がどのような学生生活と関連したものかみるために、卒業生が在学中に取り組んだ11の活動を因子分析によって要約したものである（「熱心に取り組んだ」から「熱心でなかった」の4段階）。これによって世代別に学生生活のなかで「読書」がどのような活動と深く関わっていたのか鮮明になる。まず、20・30代の若い世代では、「読書」は3因子のいずれにも明確な相関をもたないが、興味深いのは若い世代では「友人との交際」因子とマイナス相関を示すことである。つまり、読書は友人との交際を離れた文字通り孤独な読書になっているのである。

ところが、40・50代の卒業生はそうではなかった。この世代の「読書」は、「友人との交際」因子、60代以上では「一般教養科目・語学」因子と高い相関をもっていたのである。このことは、「読書」がかつては「友人との交際」や「教養の授業」と関わっていたのが、若い世代になると「読書」は授業や人間関係から抜け落ちていることを示している。

「ほとんどの授業がつまらないものであったが、ゼミは別だった。討論、闊論、倒論。これこそ、大学の授業だと感じた。ゼミの準備のため、論破されないよう、読書をした。読書の質、量は、他の授業とは比較にならないかった。」(人文学部50代)

こうした読書行動の孤立化は、「在学中の、友人との会話のなかで読書が話題になった」かどうかの設問によっても知られる。「よく話題になった」+「ときどき話題になった」の割合は、60歳代以上では6割、40・50歳代では5割、そして20・30歳代では3割と、次第に読書が友人との会話から消えていることがわかる。すでに20

表7 友人との会話で話題になったジャンル

	20・30代	40・50代	60代以上
思想書	10.3	41.6	42.8
日本文学	14.4	26.6	26.4
外国文学	2.1	16.2	14.7
歴史小説	5.2	15	16.1
推理小説	9.3	7.5	6.7
S F	7.2	6.9	0.6
ノンフィクション	15.5	15	8.3
マンガ	44.3	13.3	0.6
ビジネス書	4.1	1.2	2.8
専門書	41.2	44.5	51.1
趣味	35.1	24.3	15
教養書	7.2	22.5	26.1
論壇	0	9.8	17.8

数値は%

年前には読書に転機がおとずれていたのである。読書が話題になるとすれば、それはマンガや趣味（スポーツ）に関する本であり、思想書、文学、教養書、論壇などが話題にのぼることは次第に少なくなっている。そして、読書が話題になる友人は、「同じ学科に所属する友人」が世代間に差がなく7割を超え最も多いが、「異なる学科の友人」については20・30代が26.8%に対して、40・50代は43.1%、60代以上は35.2%と高くなっている。さらに、自分の専攻する分野、人文＝社会科学系、そして教養書の読書会に参加した経験のあるものは全体で2割程度にすぎないが、若い世代ほど読書会への参加傾向は少なくなっている。この点について、20代の卒業生は次のように述べている。

「読書による日本語能力の向上ということでしたら、大学よりも小・中でやることと思います。研究する際の書物の読解力、論文を書く際の文章力ということでしたら、前者は熱心さ（わからなければ辞書をひくなり）、後者は教授の添削する能力や、それにかけられる時間が影響するのではないのでしょうか。いずれにしろ、「もっと本を読みなさい」というのは、本来大学生に言うような事ではないと思います。大学生にとっては、読書とは、研究もしくは知識を得るための手段であり、（ないしは単に娯

楽）、それ以上の（例えば本から感動を得るとかいう）ものは、個人の趣味による範囲でしょう。」（工学部20代）

3. レファレンス・グループ

表8が、13ジャンルのうち「教養書」の読書量に及ぼす影響について、粒来にしたがって「友人との会話」と「読書会」への参加の効果の大きさ（ β ）を、在学時と現在とで世代別に比較したものである。ここでいう「教養書」の読書量とは、表7の思想書、日本文学、外国文学、教養書、そして論壇（「世界」、「中央公論」）すべてについて、「よく読んだ」から「あまり読まなかった」の4段階の合計値である。「友人との会話」の程度は、「よく話題になった」から「ほとんど話題にならなかった」までの4段階、「読書会」への参加の程度は、人文＝社会科学系の本と教養書の読書会に参加した頻度（「よく参加した」から「あまり参加しなかった」）の4段階の合計値である。

表8によって、卒業生の在学時における「教養書」の読書量は、「友人との会話」で読書がよく話題になる学生ほど、また「読書会」に参加する頻度の大きい学生ほど多いことがわかる。もっとも、「読書会への参加」の効果の大きさは、「友人との会話」の3分の1程度の効果にすぎない。だが、若い世代では読書会への参加は「教養書」の読書量に影響をもたなくなっており、この世代ではもっぱら「友人との会話」のなかでも話題にのぼることが、「教養書」の読書量に影響をもたらしていたのである。

結果は示さないが、「推理小説・SF・マンガ・趣味・娯楽書」の読書量を対象にして同じ分析を試みたが、「友人との会話」も「読書会」への参加も有意にはならなかった。これらのジャンルの読書行動は、世代にかかわらず、学生個人の閉ざされた空間のなかでの営まれており、友人と話題になっても実際の読書行動には結びつかない。ところが、「教養書」の読み方は、学生間の人間関係のなかで口コミとフォーメール・インフォーメールな読書会への参加を通じて、意識の高いレベルで維持・拡散していた。かつては、そうした読書会＝レファレンス・グループによって認知され、啓発された本の読み方があり、そうした読書会を継続させる矜持が学生の間に存在したということであろう。

しかし、大学の大衆化とともに、そうした「読書会」

表8 教養書の読書量に及ぼす「読書会」の影響

数値は β

	在学時の教養書			現在の教養書		
	20・30代	40・50代	60代以上	20・30代	40・50代	60代以上
友人との会話	0.519***	0.549***	0.436***	0.197	0.363***	0.412***
読書会	0.156	0.170**	0.191**	-0.008	0.115+	0.182**
決定係数	0.305	0.35	0.256	0.018	0.153	0.23
N	91	174	179	95	174	180

無印: $p > 5\%$

は機能しなくなった。世代論による説明は雑駁だが、自治会活動の盛んであった団塊の世代＝青春（世代間差異化）から、ポスト団塊の世代＝青春（世代内差異化）を経て、団塊世代の子ども世代＝青春（自己内差異化）になると、孤独な読書を支える集団がなくなった。読書が友人との会話にのぼらず、また読書会も消滅した今、単に教養ブックリストを学生に紹介しただけでは学生は読まないし、むしろ友人との交際のなかでは読書は阻害条件にすらなっている。ソレはソレ、コレはコレになっているのである。

さらに、表8から分かる興味深い点は、40歳代以上の現在の教養書行動に対して在学時の「友人との会話」や「読書会」への参加経験が依然として影響を及ぼし続けていることである。現在の読書習慣が、在学時の友人との関係のなかで育成されていたことがわかる。20・30代では見られない在学時の教養書を読む訓練効果が、40代以上の読書行動に現れているのである。つまり、彼らにとって在学時の読書行動とは、将来への「投資的読書」になっていたのである。およそ、教養書・哲学書を読むには多少とも忍耐を必要とするものであるが、学生時代の自治会活動や一般教養の授業、読書サークルで培われた読書力が、40代以上になって楽しみになっているということである。ところが、20代・30代の若い卒業生は、在学時のそうした友人関係が現在の読書行動を促してはいない。若い世代の本の読み方が消費化・孤読化している、というのが一つの仮説である。もっとも、この点は世代効果なのか、年齢効果なのか1時点の調査だから区別はつかない。

4. おわりに一読書する集団の育成を

本報告では、新潟大学卒業生を対象とした読書調査から、彼らの在学時の読書行動とそれに及ぼす影響の変化を世代別に検討してきた。明らかになったことは、(1)40代以上とそれ以前の若い世代では読書ジャンルに大きな溝があること。若い世代は趣味・娯楽本、古い世代は文学・思想書・教養書に親しんでいた。(2)とくに堅い教養書には、読書を支える人間関係が介在していたことである。そうしたレファレンス・グループの消滅とその消滅を埋める音楽が、活字離れの要因の一つになっている。(3)教養書については、学生時代の友人との本の会話やレファレンス・グループ内で培われた読書訓練が、在学時のみならず、40代以上の世代では卒業後も引き続き影響をもつことである。レファレンス・グループ仮設が妥当するとすれば、自生的な集団をもたない現在の学生に教養書の文献リストを手渡しだけでは堅い本は読まない。

平凡な結論であるが、教養書よりも文学小説を、教養書はやさしい解説なり書評を付すなど、フォーマルな教養カリキュラムとは別に、潜在的カリキュラムとしての読書体験を教員が育成する以外、活字離れを防ぐ手はないということである。

<付 記>

本アンケート調査に協力していただいた新潟大学卒業生各位、調査を実施するにあたって「卒業生名簿」の利用を許された人・法・経済学部、医学部、工学部、農学部、教育学部の同窓会事務局には、調査票の作成に際してお世話になった。記して謝意を表したい。

<参考文献>

新潟大学学務委員会『平成14年度新潟大学学生生活実態調査報告書』2004。

粒来香「大学生の読書行動におけるレファレンス・グループの役割」山口健二『大学のマス化段階における大学生の読書行動の変容についての実証的研究』（平成9・10年度科学研究費研究成果報告書）、1999。

前田愛『近代読者の成立』筑摩書房、1989年。

付表 学生時代に非常に感銘を受けた本

<20・30代>

教育学部卒：アジアン・ジャパニーズ／ダウン症の子をもって／レディー・ジョーカー／カップが覗いたインド／学級の主人公はぼくらだ／教えるということ／教室をいきいきと／心に残る患者の話

農学部卒：モンテクリスト伯／我々が隣人の犯罪／資本論／人間の大地／星の王子様／箱男

人文学部卒：カラマーゾフの兄弟

工学部卒：エースをねらえ／この言葉！／罪と罰／西部王国／優駿

医学部卒：自省録

<40・50代>

教育学部卒：罪と罰／カラマーゾフの兄弟／橋のない川／狭山裁判／現代政治の思想と行動／詩／自由からの逃避／人間の運命／人間の条件／智恵子抄／二十四の瞳／破戒／風とともに去りぬ／風土／変身／無常といふこと／夜と霧／竜馬が行く

農学部卒：イノック・アーディン／ディビット・コッパーフィールド／偶然と必然／広島ノート／三国志／資本論第一巻／車輪の下／小説吉田学校／成功の条件／生命の起源と生化学／雪／大地／生物学のすすめ／道しるべ／キューリー夫人／氷点／峠／八甲田山から還ってきた男／人間の絆

人文学部卒：罪と罰／資本論／こころ／ジャン・クリストフ／ファースト／異邦人／音高く流れる／源氏物語／こころ／人間失格／沈黙／風と共に去りぬ／乏しき時代に詩人／夢判断／論理哲学論考

法学部卒：こころ

工学部卒：峠／悪霊／我心は石にあらず／核融合への挑戦／故郷／五輪の書／坂の上雲／死霊／宗教と科学／生命ある日に／戦没学生の手記 我命月明に燃ゆ／草の花

医学部卒：夢判断／三国志／されど我／パンセ／愛読記／金閣寺／邪宗門／城壁／新改訳聖書／蒼き狼／村で病氣と闘う／知と愛／日本故事物語／白い巨塔

<60代以上>

教育学部卒：車輪の下／学生に与ふ／夜明け前／ガビオン族／ともに学ぶよこび／レオナルド研究／宮本武蔵／史的唯物論／出家とその弟子／笑の研究／心理学／善の研究／斜陽／大学

生の人生プラン／波多野精一全集／亡羊記／臨済録

農学部卒：ジャン・クリストフ／橋のない川／チボー一家の人々／その妹／ファール昆虫記／音高く流れぬ／何でも見てやろう／雪国／第二次世界大戦回顧記／貧乏物語／物質と生命

人文学部卒：資本論／星の王子様／ジャン・クリストフ／異邦人／橋のない川／人間の運命／夜と霧／チボー一家の人々／戦争と平和／ドストエフスキーの全作品／トニオ・クレゲル／バビロンの流れのほとり／ファウスト／フランスから／ボーヴォワールへの手紙／学生に与ふ／狭き門／試練に立つ文明／出家とその弟子／愛と認識との出会い／新刑法読本／人を動かす／世に棲む日々／中世の寺社と芸術／哲学ノート／こころ／土／島木健作全集／／問題の子ども／夜明け前／唯一者とその所有

法学部卒：罪と罰／ユント・ドロラティーク／三太郎の日記

経済学部卒：ジャン・クリストフ／カトリック原理／出家とその弟子／地の果て／聞けわたつみの声／狭き門／デミアン／幸福論／若きウェルテルの悩み／新平家物語／聖書／この子を残して／点と線／或る「小倉日記」伝／怒りの葡萄／徳川家康

医学部卒：黄河の水／西洋哲学史／青春は美わし／南極越冬記／日本における近代国家の成立

卒業生：自由記述抜粋

■大学1、2年の教養での授業は失礼ながら、魅力のない内容でした。読書は押し付けてできるものでない。興味がなければ読書はしない。大学の授業と読書を結びつける自体、少々無駄ではないでしょうか。(医学部30代)

■自分が学生の頃を思い起こすと、高校と授業内容のギャップがあったこと、その埋め方に困ったことを思い出しました。ギャップそのものは当然のこととも思いましたが、熱意があっても自分でどんな本を勉強すればいいのかわからずもどかしかったです。授業の初めに読んでおくべき本の一覧を知らせて欲しかったですし、図書館の本も考えてもらいたかったです。(教育学部30代)

■理論をふまえた実践力育成の総仕上げをしていただくことが重要と考えています。私は「生きる力」を①体力②技術力③知力④成情力⑤交信力⑥社会経営力⑦意思力ととらえています。現在、地域の世話役として①体力②技術力③成情力④社会経営力を重視しながら毎日を過ごしています。(教育学部60代以上)

■時間の許す限り読書する事を望みます。幅広い分野の読書をするにより広い教養が身に付き将来の人間形成に必ず役立つものと思います。読書する習慣をつけることが、第一に必要と考えます。自分の読書不足を大変反省しております。(農学部60代以上)

■一般論であるが、読書により教養を高めることもさることながら、日本語のvocabularyが、若い世代ほど不足のため、意が上手く伝わらないケースが増えている。Vocabularyを増やすためにも、また、日本語の正しい意味を身につける為にも、学生にはできるだけ読書を薦めて欲しい。(農学部60代以上)

■我が家に中学生がいますが、よく新潟大学の学生と名乗る方から家庭教師のアルバイトはいかがですかとの電話がきます。プライバシーの問題がささやかれる今日、人の嫌がることを平気でやる人の教養というか、常識を疑います。もっと一般教養(例え

ば心理学)や読書をして、他人の心の理解ができる人間を育てる必要があると思います。(我が家に中学生がいることと電話番号がどうやって分かったかと聞くと売っているとのこと。それではあなたの携帯電話番号を教えてくださいというダメだという。自分がされるのは嫌だけど、他人なら構わないという考え方。)(農学部40代)

■活字離れが進んでいる現在、つとめて読書に力を入れることは良いことであり、将来の人生においても必ず役に立つと思う。テレビなど、目や耳で教養を身につけることも多少はできるが、自分の身体を通して、自分の判断で教養をつかみとることこそ大切であると思う。そんな意味から考えると、読書はとても大切な事であると考えている。(教育学部50代)

■歴史に興味があって来たのは40歳代後半からで、特に歴史小説に触発された感がある。具体的には司馬遼太郎先生の一連の作品があげられる。(医学部60代以上)

■読書は習慣なので小さいうちから読む癖をつけたほうが良いと思う。(農学部40代)

■あまり教養と考えずに身近にあるものを読み漁っていたような気がします。読書ばなれになりがちですが、やはり若い青春時代での読書経験は大事ですから、講義や授業でのきっかけや読書指導をぜひすすめていただきたいと思います。(人文学部50代)

■幅広い読書は大切であるが、限られた時間(生活)の中では専門性を身につける読書が必要である。(教育学部60代以上)

■講義の内容に関わる本、またはその本を中心にあつかった講義をとおして、読むことに機会が与えられ、一生懸命に読んだことは生涯の宝物になると感じています。大学の頃にどんな本に(偶然か?)巡りあうかによって生きていく方向が違ってくるように思います。(農学部50代)

■読書の必要は会社に入ってから実感しています。言葉遣い、文書(章)の書き方、表現力、想像力、思考力と全てに関係があり、幸い工学部での実験レポートは役立ちました。確かに現在の若い人たちは読書をしていません。(部下を通して)。指導しても中々うまくいかないのが現実です。何とかなるのでしょうか?(工学部50代)

■一般教養科目の単位取得のために、関連する読書をすすめられたが、卒業後の仕事にはあまり役立っていない様に思う。広く、浅い読書では頭に残っていない。強制された読書でない方が、いつまでも頭に残っている。(人文学部60代以上)

■現在、私は「大学教育」の場からかけ離れている者ですが、一言、「学生運動の嵐」がなくなった頃に入学した私共への御批判と全く同じご心配をいまだにあいも変わらず大学の先生方がされている…。大学は専門学校ではないのです。あくまで学生の自主性にまかされるべきでは。10年・20年前より、大学生になった大変さを一番良く知っているのは学生自身の筈ですから。(農学部40代)

■幼児の頃の読み聞かせや、小学校時代の読書経験が、その後の読書に大きく影響すると思います。(法学部50代)

■1. 教養は一生取り込んでいくものと考えていますが、理論の必要な教養は中高校時代に教えたらと思う。大学では専門技術教育中心、及び実習。2. 卒業後における技術情報の提供を続けてほしい(IT化?) 3. 教養部門は一般にも開放した講座を提

供したら。(農学部50代)

■学生であった頃は読書量はそんなに多くなかったが、卒業して10年くらいたって、だんだん読書量が増加し、文学からノンフィクションと幅広くなり、読む事が楽しく生活の一部となった。是非読書を通じて人生を有意義なものにしたい。(経済学部60代以上)

■勉学という点では全くもって不真面目な学生でありました。卒業後、少しは本も開くようになり、読書から広がる自分の“知”というものを実感しています。「馬に水を飲ませる」例ではありませんが、自らが求める時期こそが、教養教育の時期であると考えます。大学教育が、その教養教育の時期となり得るには、大学教官自身が研究者ではなく教育者としての専門性をより高める必要があります。読書そのものは、教養教育のみならず、人格形成それ自体に及ぼす影響は間違いなく大きいものと考えています。(教育学部30代)

■教養は知識では有りません。読書は他人の人生や考え方に触れる為の一つのルーツに過ぎません。(工学部30代)

■小学校の教員をしています。1年間朝読書を続けたり、週1度は全員で図書館へ本を借りに行ったりしています。子供たちの身の回りにはゲームやテレビ、ビデオなど本よりも魅力的なものがたくさんあり、読書の場を設定してやらないと、自ら進んで読む子供はほとんどいません。(教育学部30代)

■求められる教養と知識は、押し着せの読書からは生まれて来ない。学生としての自覚(プライド)と欲望(知的運動)を引き出す動機を与える事がマンガ耽読学生を救う道であると思います。(経済学部60代以上)

■教養教育:専門分野の先生の講義からは、教養としてあるべき姿は見えなかった。

読書:読書の大切さは学生時代も現代も感じていて図書館にはよく行く。

全般:大学時代の目標を学生がつかめるよう毎年ガイダンスをすべきだと思います。入学時にはあったが年度ごとに考え方も大きく変化する年代であり、その時期にタイミング良く目標的な方向性を示すことが大切。学生時代は迷っている人が多い。自分の体験で。(農学部60代以上)

■自分の経験から。1. 読書の量は教養知識の多さに。2. 読書量の多さは、読解力、読解速さにつながり、それが仕事において決断力(内容、速さ)につながる重要な要素である。——自分の反省でもある。もっと読書(解)力を高めておけばと。3. 読書により、自信の豊さの高揚。(工学部60代以上)

■読むという動作には、これから得る物だけでなく、いろいろな方法で得た情報、情操、知識等を整理確認し、身につける役割もあると思います。最近になっても教養部時代での知識が役に立つことがあります。教養教育は無駄ではありませんでした。我々には!!(農学部50代)

■すっかり忘れていました。もっとも忘れる程度の読書であったとも言えます。社会に出てからはその時その時の必要に応じての読書でありました。現在は自分でも思いがけない事です。詩集、語に関する本を多く読み、あとは時代小説が大好きとなりました。読書に関して大学のあり方といえば、物事を考える方法論を教えることにあると思います。(人文学部60代以上)

■新潟大学在学中は、単位をとること、それもできるだけ良い点でということを考えていたため、一般教養、専攻課程共に、教科書、専門書、参考書以外にあまり本は読みませんでした。高校時の予習、復習、部活、受験勉強、大学時のやはり予習、復習、部活、少しのアルバイト等、あまり本を読む(読める)時間がなかったと記憶しております。そのことが良かったかどうかは、はなはだ疑問ですが。(人文学部60代以上)

■就職してから読書にあてる時間が本当に貴重だと感じます。やはり学生のうちに多く読書するべきだなあと痛感しております。(農学部30代)

■教官からどんどん小論文の課題を出してほしい。(教育学部50代)

■出版の量が多いが、軽い読み物が多い。大学生には気の毒。重ねて、注文しても手に入るまでに時間がかかるということにも読書離れになっているのでは。教師の方から積極的に良書の推薦をお願いしたい。(教育学部60代以上)

■2/22読売新聞、青少年アンケートで、日本は努力すればだれでも成功できる社会だと思うかというアンケートに対し、大学、短大生の79.4%がそう思わないと答えていることにショックを受けました。彼らは努力をしたのだろうか。自らを高める努力をしたのだろうかと問いかけたい。大学は自ら学ぶ所。意欲のない人には何も与えてくれない所と、入学したてに叔父に言われた当時も、今もそう思っています。(人文学部60代以上)

■読書はその時々之感心と興味によりやるものだと思います。必要にせまられて(仕事上)のこともあります。大学の授業でやることだとは思わない。教養教育と読書は関わりがないと思う。ただ授業で興味をもって自分であさって読むことはあるが。(教育学部30代)

■昨今の学生は精神的・時間的余裕があった場合、考え方や行動がどうなるのかは判らないが、私の場合は抑圧された受験勉強から解放されたら好きな本が読める楽しさがあつたし、友人からの啓発も受けていた。読書の習慣は子供の頃から培わなければならないと思いますが。今の子供は忙し過ぎる感がします。大学生になってから読書はやや無理なように思えます。(人文学部60代)

■読書による日本語能力の向上ということでしたら、大学よりも小・中でやることと思います。研究する際の書物の読解力、論文を書く際の文章力ということでしたら、前者は熱心さ(わからなければ辞書をひくなり)、後者は教授の添削する能力や、それにかけられる時間が影響するのではないのでしょうか。いずれにしろ、「もっと本を読みなさい」というのは、本来大学生に言うような事ではないと思います。大学生にとっては、読書とは、研究もしくは知識を得るための手段であり、(ないしは単に娯楽)、それ以上の(例えば本から感動を得るとかいう)ものは、個人の趣味による範囲でしょう。(工学部20代)

■教養科目として、いろんなジャンルの科目があつたらよい。専門科目に直接関係のない。例えば音楽とか。(人文学部60代以上)

■文章で正確に自己表現をし、或いは的確に物事を相手に伝える表現力を身につける為には、基礎的な部分で読書は重要な役割を持っていると考えます。想像力の形成についても重要な関

係があるのではないかと推定します。(工学部60代以上)

- 日本語(国語)の読み書き、理解力の強化が必要。読書はそのために大変良い。但し、時間がかかるので小学校からの読書の習慣が必要であり、大学ではいろいろな角度の本を読ませるのが必要。絶対はないので、いろいろな意見、思想、ジャンルを知ることが大切。(人文学部50代)
- 現在の人々は読書を忘れ、文学も時代の精神のリーダーたる力(内容)を失って衰亡しています。しかし人は価値ある書を読む事によってこそ心を育て、人として成長します。どうぞ自信をもって書を愛する教育を、本を読むことで(喜びをもって)講義(授業)についてこられる教育を進めて下さい。(人文学部60代以上)
- 全員を対象にした“教養教育”と、個人の精神的履歴としての“読書”とは、動機、背景、レベル等に違いがあり、両者の間に“かかわり”を求めることには無理がある。例えば、小生の場合、S33年入学直前に大病を患い、健康、将来に大きな不安を抱え、哲学書を読めており、「西洋哲学」の授業に多いに期待していた。しかし現実には多くのボンクラ学生(に合わせて教授がレベルを下げた)と、無気力な先生による授業からは期待するものは得られなかった。(工学部60代以上)
- 私の母親(84歳で没)は子供の頃、家業の製本業の手伝いをしながら、あらゆるジャンルの本を読んでいたようである。学歴はないが読書を通してたくさんのことを学んだと聞かされた。読書のもつ意味は重いし、単なる教養だけではなく、人間の生き方の参考になる。又、参考にしなければならない。(農学部60代以上)
- 読みと書きが基本ではないか。読まないとまず書けない。又、書けると読みたくなる。小学校から家庭でも習慣化させる必要があると思う。極論をすれば、勇気を持って“マンガはダメ”と。(こんなことをいうと袋だたきになる世の中にしてしまった。)(工学部60代以上)
- 在学時に受けた教養教育は今振り返ってみると、幅広い“知”を獲得する意味で有益だったと思う。もっと深く広く学んでおけば今頃になって思う次第。少なくとも当時の教養教育が良くなかったとは思わない。現在、大学教育のあり方が問題となっているが、幅広い知識を身に付けさせ、自分の興味が読書ひいては知の獲得に結びつくように導いてやるような教育をするべきだと思う。(工学部40代)
- 若いうちに読書経験(習慣)を積んでおくことが大切。(教育学部60代以上)
- 大学時代の講義は刺激がなく面白くなかった。ただ湯浅先生の熱が入っていて良かった印象がある。教師も学生も常に刺激しあう環境が大事と思う。また、小遣いが少なく、図書館も貧弱で思うように読書ができなかった。(人文学部50代)
- 自分の反省から現代の学生には大いに読書に親しむよう教養教育の中で重視されるよう希望します。(教育学部60代以上)
- 国語(日本語)外国語力をつけることがこれからの読書や生き方に連なっていくと思います。(人文学部60代以上)
- 大学での読書ぐせが社会へ出ても続きました。何かにぶつかる何冊か本を読みました。教えられるより自分で学ぶ方法を学ぶところです。(人文学部60歳以上)

- 最近、若い人の日本語文章力が落ちたと実感しております。文章力は若い頃の読書による訓練が大きな力になると思います。最近日本語を見直す動きが盛り上がってきているようで、大変良い事だと思っております。(人文学部60代以上)
- 映像と読書による情報収集は頭脳を鍛える方法としては異質であると思う・文字離れは思考方法において軽薄な方向に進まないだろうか。少子化で意欲の軽薄な学生も増加すると思うが。読書(研究、学習)は強制によって培われていくものだと思う。(教育学部60代以上)
- 読書が少なかった事をつくづく悔いております。(教育学部60代以上)
- ①現在の世界情勢、日本の動向等について週刊誌、月刊誌を読んでください。雑学を身につけることが重要。②歴史小説を読んでください。歴史から人生や社会経済の今後の動きを知る。(人文学部60代以上)
- 中学入学くらいまでは、両親がよく本を購入していましたが、自分の志向がはっきりしてきてからは、読書量は減少したように思います。小さいころの環境づくりが、習慣につながり、大きくなってからの読書習慣に生きるように思います。私たちは、知識蓄積型の教育を受けて育ちましたので、必要のない知識の本は読まない=切り捨ててきたように思います。教養教育と読書の関わりには、その時代の教育観が反映されるのではないのでしょうか。(教育学部40代)
- 現場に出ると(職に就くと)なかなか自分の時間を持てず、自分の本は読めなくなるが、子どもができたりすると別の意味で育児書や子ども向けの絵本を目にすることが多くなった。(教育学部30代)
- 学生時代の友達と就職してから話合ったときに、新聞のどこを見るかで意見が違いました。社説、コラム、人の特集欄・・・その中で本の広告という人間がいました。今ではなる程と思います。いい本に出会うことはすばらしいことです。誰彼となく、「最近感動した本」を聞くことが多くなりました。(教育学部40代)
- 自分の専門をより高めていくためには、専門領域の読書はもちろんであるが、より裾野の広い感性が必要であり、高校～大学の間にできるだけ良質の感性を育める書物に出会っておくことが必要と思う。個人の意思の向かうところに良書との出会いありと思うが、昨今の状況から大学でそうしたおぜんだてが必要なのかと思うといささか情けないかんじがしないでもありません。(医学部50代)
- 読書をするだけで教養は身につくとは思えません。しかし読むことは必要と思います。学生時代にゆったりと本に囲まれた時代をなつかしく思い出しました。(教育学部40代)
- 教養授業の中で人生において何が大切なのか、とか社会の仕組みがどうなっているかなど、知識、教養を得ることの出来る書籍を多く紹介していただけるとよい。(人文学部60代以上)
- 就職して以来、本屋に行く機会も減り、自由な時間も減りなかなか読書もできません。学生の頃は、皆でよかった本をまわし読みしていたのがなつかしいです。(農学部30代)
- 最近では教養ということばに違和感を覚える。時間的にも経済的にも余裕があることが即ち教養ということか?直近の用に関わらないテーマの読書を楽しむにはいまま少々年を重ねなければならない

ようです。(工学部50代)

- 温故知新、Computer関係の本と歴史物、科学と古典と言うようなバランス感覚が大事だと思います。短期的に見て合理、不合理なもの、長期的にみて合理、不合理なものとの区別がつけられるような読書の習慣の形成が望ましいと思います。(教育学部50代)
- 小学校に勤務していたため、図書館管理の仕事をする必要に迫られた時から、児童文学を中心に読書をするようになった。大学時代も読書は大好きだったので、ジャンルは変わっても、読書することに抵抗はなく、今では趣味になってきている。レポートのための読書であっても、そういう機会が増えれば本を手にするチャンスも増え、もしかすると、読書部底の人にとっては、読書を始めるきっかけになるかもしれない。(教育学部40代)
- 私が新潟大学に在学していた当時、大学の図書館はとても利用しにくいものでした。本は主に友人から借りたり、貸本屋、バイト先の家庭から借りたりしていました(自分では自由に買える程お金はなかったのです)。私の場合、大学に行ったから読書をしたというのではなく、小学校の頃から本好きだったからずっと読み続け、定年退職した今は長野の市立図書館の常連として借りて読んでいます。読書のおかげで知識はふえ、色々なことに好奇心がわき、比較的楽しい人生を過ごしているといえるのではなからうかと思います。(人文学部60代以上)
- 小生の在学時代と比べて現在の五十嵐キャンパスの図書館充実度は素晴らしいと思います。在学中に読書はできる限り努力すべきだと思います、それがその後の自分に役立つと思います。小生はそうでなかったけれど。(あまり読書しなかったが=スポーツに熱中していたので)(人文学部60代以上)
- 最近の子ども達の読書量はほとんど0に近いように感じます。この世代が大学生になった時、さまざまな論文や専門書を読まなければならない講義にいかに対応してゆくのか心配です。読書を楽しめるよう、又、興味を持てるような工夫を願います。(教育学部20代)
- 大学4年間では専門分野の入り口しか習得できません。社会人となるための一般教養、一般常識を身に付けさせて欲しいと思います。数年前、職場で採用を担当し、多くの学生と接し実感しました。団塊の世代といわれる私は厳しい受験戦争のため高校まではあまり読書ができなかったため、大学入学後はとにかく国内外の名作を読みました。(農学部50代)
- 学生運動のさなか、西大畑のプレハブ校舎で教養科目の授業をうけた。社会学で大塚久雄「プロテスタンティズムと資本主義の精神」の購読をした。非常に新鮮な内容で、今でも思い出す。今の学生は、環境も時代も全く異なるが、幅広い教養を身に付けてほしいと思う。(農学部50代)
- 大学の教養教育は広く浅い知識を得れば良い。大学生活は数年であり専門的な深い教養は卒業後、毎日数十分でも継続して読書して行くことによって得られる。(経済学部60代以上)
- いまになると、学生の頃、もっともっと広く多くの量の教育書を読んでおくべきだった、そうでなかった自分が悔やまれる。限られた時間・人生なんだから、努力しても限られたものしか読めない。文学、自然科学、哲学、歴史書など広い教養が必要と思うが、一限られた時間—その中で「良書」というのは、やはりその読

書に感動を与えるものが「良書」だと思う。広い分野の「良書」をもっと読んでおきたかった。(教育学部60代以上)

- 小生は、あまり熱心に勉強、読書をしていなかったため、お答えする資格は無いように思います。もう一度学生時代に戻れたら「昔のように時間的にゆとりのある学生生活を楽しんでみたいと思います。」大学とは一生の友人をたくさん作る場所だと思っています。勉強はほどほどであっても友人を大切に考えています。(医学部50代)
- 会社に勤めてから5年が経ちますが、改めて、大学というものが(私のいた学科が特に)社会からちょっとかけ離れていたなあと、思います。在学中に就職についての情報をもっと欲しかったのです。単なる「読書」でなく社会全体を見渡せる知識、考え方が必要だと思います。「新大生(大学生一般ですが)は頭でっかちで融通が効かない」と言わせがちですので!!(教育学部20代)
- 教養教育は間接的にプラスになったと思う。ものの考え方、調べ方、研究の進め方などを大学で学んだと思う。就職してからは自分で覚えるしかなかった。その際の手がかりは読書からが最も多く得られたと思う。もっと語学(会話を含む)に力を入れておくべきだったと悔やんでいる。(人文学部60代以上)
- 自分から目的意識を持って読むのが一番大切だと思います。(医学部30代)
- 教養の育成は学生個人の意識の問題である。学生自身が自己にテーマを課し、落ち着いた時間をそのテーマ部分の読書との関わりを持つことにより、自己を見つめることが大事と思う。われわれの時代は取得単位数より、科目数が多かったと思う。その分、集中して特定の科目に絞込むことができなかったと思う。◎受講科目数を減らすべし!◎ゼミ形式の形態にすべし!(レポート提出)(工学部50代)
- 私の大学生時代は、日本はまだ貧乏で、医学の専門書ですらなかなか手に入りにくい時代で、父の昔使った医学書を参考にした時代でした。従って昔からあった日本文学全集や外国の文学全集などジャンルなど気にせず読んだことがあります。教養の教育には、読書は大変重要と考えております。(医学部60代以上)
- もっと読まなければ、読みたい、と思う気持ちはあっても、なかなか時間が取れない。私だけでなく、多くの人がそう感じているように思います。メディアが多様化しているなか、読書も教養を深める一つの手段、原点であることを今の大学生に感じ取って欲しいと思います。(教育学部30代)
- 日本人のアイデンティティを形成する日本文化、公民としての教養が優先され、しかる後に文明の衝突等の世界史、世界の力学並びに語学を含めた国際人として生きて来た先輩の話(例えば日経新聞私の履歴書etc)を学ぶ、生きた教養をもっと厳しく指導する新潟大学生の育成であってほしい。(工学部40代)
- 一般教養書を読むことも大切と思うが、大学を出る以上、専門書の読書もさらに必要と思う。(教育学部60代以上)
- 文書作成能力を向上させる上でも読書量は豊富であつたほうがよいと思う。(農学部40代)
- 読書は教養という点だけでなく、集中力、理解力などや思いやる心などに欠かせないものです。現在、ローマ人の物語を読んでローマの長い歴史に思いをはせています。近いうちに訪問を

と思っています。(工学部60代以上)

■ 今後はコンピュータ等を用いたメディアのライブラリーを学校で充実されることを希望する。(工学部50代)

■ 40年近い昔になるが、当時は経済的に苦しい中で、目的意識をもって読書する人が多かった。経済大国になり豊かな経済と有り余る情報の中で活字離れが進んでおり何とも皮肉な現象である。読書は教育の基本であり、義務教育の時から力を入れるべきで根本的な見直しが必要と考える。(農学部60代以上)

■ 一般教養の必要性は否定しないが、半年～1年くらいでよいのではない。読書の必要性は当時も現在も感じている。若さでしかできない読書(日本・世界文学全集etc)があるので、子どもにはそれを義務として課している(大学進学)一般教養も、読書を励行し、リポート添削のみとすればよいと思う。(人文学部50代)

■ 講義で、手取り足取り「教養とは…」と教わるのではなく、学生を刺激することが重要だと思います。興味を持ったことにはどんどん取り組んだような覚えがあります。小説を読むことは少なかったけれど、科学を学ぶことは、物語よりもドキドキしました。とりとめない内容で、すみません。(教育学部20代)

■ 大学時代の読書は他の年代のそれと違ってより思索を喚起するものだったと思う。比較的時間に恵まれ、若い感性で物事についてじっくり考えることができる。故に大学の教養教育、特に読書へのいざないは大事だと思う(教育学部50代)

■ 小学4～5年の頃、藤村の「破戒」に感銘し、以来文学を読みあさった。高3になり受験のために読書を休み、英・数の勉強に専念した。大学時代は仲間と思想・哲学・宗教などについてよく論じた。人生などよく分かっていたが、生意気にも熱く語り合った。医者になり、日々の仕事を通し思うことは数学の知識を増やすことよりもっと書を読み、歴史を学んでおくべきだったということです。それらが人の心を豊かにすると知ったからです。大学時代、教養部の存在に疑問を感じていた一人だが、専門外のさまざまな知識に触れ、友と語り合えたその2年間には大いなる意義があったことを後年になって悟った。(医学部50代)

■ (要求とズレている意見かと思うが) 大学時代の授業で教官に面白いので読んでみるようにと言われた本は心にとめ、読む動機付けになると思う。テストがらみだったりすると、反って白けるものになる。(人文学部50代)

■ 教養教育は非常に重要であると考え。読書は最も重要である。最近の経済事情から、学生は気楽に本を購入できることも多いと思う。(農学部50代)

■ 学生時代は、目的、標的があまりはっきりしないまま、就職してしまったというのが実感です。大学生生活を有意義なものとするために、高校までに、親戚、両親などと将来の自分の生活について話したり考えたりするプロセスがあれば、よいですね。遅くとも、最終学歴時には、それを具体的にイメージできる様にしたいものです。そのためには、目的意識を持った読書も必要でしょう。(工学部30代)

■ 大学での教養科目は、「単位取得のために仕方なく講義を受けた」というものが多かった。そのため知識が浅かったり、「知ったかぶり」になっている学生が多い気がする。「知識」としての教育ではなく「生活」する上で必要な教養が身につくカリキュラ

ムができればと思う。(農学部20代)

■ 数多くの大学が各地に存在している今日ですが、新潟大学は其中で、今後も地域の最高レベルの高等または専門教育機関であり続けると考えます。その中で、そこに学ぶ学生たちは大学で学ぶ専門知識と共に、教養人として豊かな教養、知識、識見、円満な人格を見えるために、幅広い読書は必要であり、欠かせないものと考えます。(人文学部60代以上)

■ 読書は学校での教育にはあまり関係なく意欲のままに読みふけたと思います。ただ、人格形成には非常に影響を及ぼしたと思います。(医学部60代以上)

■ 卒後30年の現時点で考えると、英語を中心とする語学はもっと充実していたほうがよかったと思う。経済学、法学、数学等はほとんど記憶に無く、役立っていない。美術、音楽等の鑑賞、理解に関する講座があればよかったと思う。(医学部50代)

■ 在学中の読書量が少なかったことを反省し、悔いています。そして、それが逆に社会人になってからの読書の動機付けになっています。学生の皆さんには、是非、在学中に読書量が増えるようなきっかけを与えて欲しいと思います。(工学部40代)

■ 私の経験では大学生時代は、できるだけ難しい本をたくさん読んでおいたほうが将来のためになると思います。(農学部60代以上)

■ 統計学の知識が文系理系とも社会に出てから、必要になる場合が多いと思いますので、教養教育の中に入れておくとうまいのではないのでしょうか。(農学部60代以上)

■ 寮に4年間住んでいましたので読書に適した環境ではありませんでした。楽しい寮(学生)生活でしたが教養が身についた認識はありません。読書は社会人になってから増えましたが学生時代にもっと読書をし、深く考える時間を持つべきでこの点は後悔しています。(人文学部50代)

■ 魅力ある授業を通しての読書との関わりを持たせていくのがよいと思う。(工学部30代)

■ 月給を貰えるようになって好きなだけ本が買えるようになったことが一番嬉しかった。大学に入ってから本を読み、というのは遅すぎる。教授達が専門書以外の本を読んでいないのは驚くほどだ。私の信条、だの随筆だのよく書いているがお粗末この上ない。結局好奇心や疑問を活字で満足させるくせは子供の頃につけるべきだ。(医学部60代以上)

■ 教養教育とは人格形成や国際性又は学問分野の成り立ち等、明確な目的に向かって為されるべきではないか? Internetの時代に単に読書だけが情報元でなかろうとも思う。自ら考えて自分の人生を切り拓ける人を生み出す大学であって欲しい。なお、小生が2年前に体験した米国の大学図書館は24hr-openであり、一般市民も利用可能でした。(農学部60代以上)

■ 自己の問題意識(人生、世界、自然、労働…等の)向上と、かみ合う教育の充実さに期待したい。一方、読書力は、幼年、少年期の中で良書との出会いの中で習慣化されるものと思うので、その習慣の無い学生にどう対応した教養教育をすべきか、探求していただきたい。(人文学部50代)

■ 昭和33年～37年当時の学生には本の入手が困難であった。現在のように店頭で多くの本はなかったし、アルバイトも限度があり、図書館を利用したり教官から借用したりということが多く、ほんの

種数も限定されていたと思う。アンケートに答えながら、時代と環境の変化を感じた。(教育学部60代以上)

- どここの大学でも指定図書制度が低調のようです。図書館と連携して、もっと有効に活用すべきだと思います。(法学部60代以上)
- 大学では学ぶところで学校が教えるところではないときいたことがあったが、学校側がもっと積極的に教える方針を出しても良いのではないと思う。(農学部50代)
- 読書は人をつくる。いろんな人の話をよく聞くと、政、官、財、外国の人たち、いずれも「これは」と思う人は若き日の読書量＝基礎教養が、どこかでのぞく。NIEではないが、大学でもっと新聞を利用してはどうか。講義の魅力はトピックをいかに盛り込むかにある。卒後50年。論壇トップが「世界」は？(法学部60代以上)
- 子供の頃からいわゆる本の虫であり春・夏・冬休みには100冊近い単位の本を読んでいた。これは現在大変役に立っている。時に外人や自分と異なる分野の人と仕事をする時や話をする時にはつきり感ずる。(医学部60代以上)
- S44～S50の6年間新大に在籍していた。当時の教養教育は現在の自分にはまったく意味を持たない。最近の教養教育については直接分らないが、自分の子供達のカリキュラム、話を聞く限りにおいては昔とあまり変わっていないようだ。実社会に出て役に立つ学問のみがいいとは言わないが、終生にわたってどこか心の片隅にでも残っているような、教育内容であって欲しいと思う。(医学部50代)
- 旧制高等学校にあこがれての二年の六華寮生活と、二年の下宿生活は味わいのある学生生活となった。人との交際は、話題を引出し、読書欲を生む。活字に接していることは教養や知識に一番近い処にいるのだからそんな環境維持を自分自身が最も心掛けるべきだと思います。(人文学部60代以上)
- 広く一般教養を教育すること(或いは受けること)は、何かのうちにその重要性を認識することが多い。重要性を学生に教えて欲しい。(人文学部50代)
- 一般教養を教えている教授は知識不足であった(当時)、一方的な板書でチャイムを待っているようであった。(農学部60代以上)
- 終戦後すぐ入学したので本も食べ物もなかった。マンガetc活字は非常に少なかった。(医学部60代以上)
- バランスのとれた幅広い知識と教養こそが、豊かな人間性を培う基本であると思います。教養の授業は専門以外の分野に興味を向ける契機になるという点で、読書へ向かわせる役割を持っていると思います。(人文学部60代以上)
- 教養科目の各授業が、学問のどこに位置付けられているか、各科目の位置付けが分からないまま、ただ単位を取るために受けていた。必要性は社会に出た時感じるが、上記を明確にすることが重要。(農学部50代)
- 読書は高校教育の範囲外の知識や教養を身に付ける有効な手段であり、でき得る限り時間を割くべきだと思います。私は工学部卒ですが専門以外の知識を身に付ける手段は読書以外にありません。特に歴史書は現代に繋がる人間の営みや出来事が詳しく書かれているものが多いので一つでも多くの歴史書を読むこと

を奨めます。(工学部50代)

- 自分の本など買うお金のない時代でした。(医学部20代)
- どの学部においても、教養2年専門4年の6年生が望ましいと思います。今、親となって考えると経済的負担は辛いものがありますが、理想としては6年間です。(工学部40代)
- 私が通学したのは昭和30年代前半です。その頃の講義内容は職場の科学技術のレベルとは大きな差があり、新潟大で学んだことで役に立ったことといえば専門科目よりも数学、物理、化学など基礎科目であったように思います。特に私の場合は大学で精密工学、修士課程および職場としてコンピュータ関係を選んだ特殊性もありますが、基礎科目を重視した大学に学んだことをハッピーであったと思っています。(工学部60代以上)
- 一般教養の単位数は減らした方がいい。専門分野の十行が多い方がいい。4年生になっても一般教科が残っていた。第二外国語(ドイツ語)に使うエネルギーを専門に向けたほうがいい。日本国憲法など必修にする必要はない。講義が下手だったせいもある。ノートを執らせるのが主流の教養はつまらない。プリントにして配ればいい。聞いていて為になる、楽しい(専門的に)話をするよう教授はもっと工夫すべきだ。教養として、文庫本でなく哲学書は他社のものを読んだ。(教育学部60年代以上)
- 大学生の頃は、自分の専門に関わる本以外は読んだ覚えはないですが、現職について本を読む楽しみを身につけたように思います。大学での教育とは全く関係ないと考えます。(教育学部30代)
- 若いときに名著を読んでおくことは、その後の人格形成に資すると思われる。最低、活字に親しむ習慣を身につけることは必要。(人文学部60代以上)
- 卒業後も学科に行くし、新潟勤務のときは休日に図書館を利用してもらった。今でも教養の個人的な授業の先生の記憶が残っており、教養として知識になったと感じる。読書量と筆力は比例すると考える。教養課程の充実を望んでいる。(農学部50代)
- 今日の青少年の読書とはマンガを読むことですので、通り一片の読書の契機では教養教育に結びつかないはず。在学中長期休暇のレポートに読書を加えて強制から習慣化を導くのも一方法か。(人文学部60代以上)
- 教養は、人類の文化的な遺産であり、現在のようOA化されつつある社会においてこそ、人類の文化遺産の基本的な内容を大学人・学生が討論して、つくってほしい。とくに、グローバル化された中で、哲学、文学、歴史、科学の基礎的事項について。大学での教養は、もっと重視して、青年にゆっくりと考えさせてほしい。(教育学部50代)
- 私は短かったけど大学での教養課程や語学教育はずっと生きています。40年前の授業を今でも思い出します。工学部出身ですが専門よりその方が社会に出て役立っているように思います。(工学部60代以上)
- 専門書は読むのが当然でこれは読書には入りません。医学部卒業ですが学生時代、読みあさったのは様々な哲学書でした。但し自己流の理解の仕方でした。読書会は当時(30年代)はなかったと思いますが、一般教養の先生方で、自分の読んでいる本の疑問や理解できない点を質問できる方が欲しかった思いがあります。現在は仏教を含め広い範囲の宗教書がおおくなって

います。若い頃に接する機会がなかったのが非常に残念です。世界観や、日本〜世界史の考え方が全く違っていた様に思えます。(医学部60年代以上)

■「広く浅く」を軸においた読書の効用は効果的なものである。(人文学部50代)

■旧制高小卒後、農業従事し、その後大学に入ったとき、一般教養科目は、すべて新鮮だった。数学は難解でとらなかったが、あとは時間表で許せる限り受講した。とくに語学は中学生程度だったから図書館で必死に勉強し、苦いながらも楽しかった思い出がある。家へ帰れば農業をやっていたから、アルバイトは全くなかった。電車時間にむさぼるように本を読んでいた。文系でもあるので、すごく役立ったと感謝はしている。仲間のうち、正規に高卒できた人は当時から一般教養をサボりがちであったが、私にはそんな暇もバイトの暇もなかった。子供2人を大学卒業させたが、彼らは二人ともスポーツに熱心だった。やはり、力のある人向けには、スポーツなり、社会経験と併行した教養課程と位置付けるべきであろう。たった一度の人生を、有意義に全うするための、大切な手代と思う。(農学部60代以上)

■昭和39年に卒業して、大きな会社に入って、全国の大卒者と話して、文学、音楽、絵画等に興味を持っていることに驚かされた。苦学生で金銭的に余裕ない学生生活でしたが、金がなくても専門教科以外に賞味をいだいて、取り組んでいなかったことを会社に入ってから痛感した。技術系でもやはり教養課程で自分のかくれた才能を見つける機会があってもよいと61才の今提言したい。(工学部60代以上)

■在学中といえば、30年も昔のことで、記憶はあまり鮮明ではありません。ただ、大学で4年間を過ごしたことは、読書幅を拡げ、今でも本屋さんに入ると、ワクワクするような本好きになった事と無関係ではないように思います。(人文学部50代)

■そうは思っていたが、仕事に就くと自分の時間がなく読書はぜんぜんできなくなった。ましてや結婚して子供ができると…しかし、今は単身赴任中なのでほんのすこし時間ができたが、つついインターネット…。(工学部30代)

■学生時に読書力を極力つけさせることが生涯を通じて大きな武器となる。(工学部60代以上)

■人生を通じて大学時代は一つの通過点に過ぎないと思う。入学し卒業する過程で勉学に対するエネルギーを費やしてしまうタイプが多く見られる。私の経験では、優秀な成績者である程卒業後の勉強が少ない様に感ずる。大学時代でエネルギーを費消すべきでなく、一生を通じて配分すべきだと思う。卒業後継続して勉学にいそむことがベストである。『優』の数など社会に出たら何の意味ももたない。意味があるのは卒業後もその能力を発揮出来る時に限られる。大学生に過度の勉学を強いてはいけない。平均『良』で良い位の余裕が欲しい。本学の学生は入学時点で十分優秀だと思う。(人文学部50代)

■どんどん勉強し、好きな事を多くやっておくこと。(農学部60代以上)

■学生時代より社会人になった時の読書の幅、量とも格段に増えるべきものと考えます。読書は一生の友です。そのきっかけを与えてくれる、むしろ体得する時期が大学生のときと考えます。(人文学部60代以上)

■一般教養のどの教科が熱心だったのかという具体的なアンケートにしてほしかった。カリキュラムに反映させるレベルの質問とは思えません。読書指導のあり方のアンケートに何故両親の学歴や職業が必要なのか説明がほしい。デフレ経済のもとでも活躍できる人材の育成を期待する。(農学部40代)

■教養教育は見方、考え方を広めるとして大切だと思います。社会に出て、時間を経るにつれてそう思います。(教育学部50代)

■読書は実際に経験できないことを学習できるという間接経験であるというのが、私の持論です。(農学部60代)

■リタイアしてみて、もっと教養的な読書をしておくべきだったと思います。TVはネットの普及で益々、文字離れが進むのは残念です。ITの進歩は両刃の剣です。(人文学部60代)

■指導教官からもう少し書物の紹介がほしかった。(教育学部60代)

■教養部時代に選択した文学(確か中国文学でした)や地理学などは、卒業してしばらく経って、今でも強く印象に残っています。習ってよかったと思っています。(医学部40代)

■教養教育も含むすべての教育は進化する人間工学を含むグローバルなシステム工学を系統化して、実社会に役立つよう理論化して教育していく必要があると考えます。(工学部60代)

■時間のある学生のうちに色々な分野の本を読んでおいたほうが良い。自分も、もっと本を読めばよかったと後悔している。だから今になって、なるべく多くの本を読んでいるつもり。(農学部40代)

■学生時代に身についた読書の習慣は卒業後の今でも続いている。アンケートは有意義だ。新しい発展に期待する。(人文学部60代)

■人間形成において、文学的読書は必要と思いますが、高校以降、世界文学に目覚め、人として自由に生きることの大切さ、自らの心に忠実な生き方を学びました。(教育学部60代)

■英語を週10コマくらい、会話をガンガンやったほうが良い。つまらない教養科目は廃止せよ。体育、美術など意味がない。第二外国語も不要。役立たない。月7-10冊は本を読むべきである。(医学部50代)

■専門教育の中で必要に迫られて読んだ本よりも、一般教育の中で紹介された本の中に、視野拡大など、誘発される本が多かった。また、友人間で話題の本も興味関心を刺激された。(人文学部50代)

■活字が好きで、乱読ですが毎日、読書しております。読書は小さい時からの習慣が大切なのではないでしょうか。(教育学部60代)

■教養部の授業で仕事に関係ないものでも印象のあるものはあります。語学等は卒業しても必要なので、話せる等、実用的な部分に重点を置いて良いのではないのでしょうか。(農学部30代)

■大学時代からもっと身を入れて読書をすべきだと思いました。(人文学部20代)

■教養というものが、いったい何を指しているのか、一般常識のことなのか?高校までに学ぶようなことは、社会に出て、生活していくうえでも、就職してから、あまり役には立たない気がする。大学が独立行政法人になったら国から離れて、独自の教育というものをしてもらえたらよいと思う。読書はすごく良いものだと

思う。(工学部20代)

■語学や政治・経済等生活に必要な科目はある程度は必要だと思うし、読書はできるだけ機会を設ける必要があると思います。(工学部30代)

■大学一年生の時、教養の授業は必要だったのか疑問です。多くの人はそう思っていましたし、そのために大学への興味のうすれてしまい、遊びに走ったり、留年したりしたのではないかと思います。専門的な勉強をしに大学に入学したのに、高校の延長のような授業が待っていて、がっかりしました。(教育学部40代)

■理系だったためか、周囲も含めて「教養は無駄なもの」という考えが多かったが、社会に出てみると知っているのとちょっと楽しいもの、ということがわかった。やはり教養は読書量に比例すると思うが、大学教育に必要なと言われると少し疑問。ただ、むだだったとは全く思っていないので、少しはあってもいい。読書はかなりプライベートなもので、家庭の雰囲気などが、大きく影響すると思います。それに、心の余裕がないとなかなか難しいと思いました。(農学部40代)

■大変難しい内容でした。現在一人の子持ちですが、読書の大切さは痛感しています。学生の読書離れは、幼児の頃からの活字の体験が少なかったのではないかと思います。娘にはそうなってもらいたくなかったので努力しました。(教育学部30代)

■読書は自分の好きな時に、好きな場所で読める。また活字離れを防ぎ、想像力を豊かにすることができる。私は、学生時代、ほとんど読書をしなかったが、知識を得て、想像力を豊かにするため、多くのジャンルの本を読めばよかったと後悔している。(農学部20代)

■私は学生としてはまじめなほうであったと思いますが、ほんは興味が高まるか、課題の解決に必要であるかどうかでないと読まないと思います。教養でも調べて解く課題が出されると良いと思います。(教育学部30代)

■読書は面白さがわかったら、止められなくなる。どこにでも、面白い本があれば自然に親しむようになると思う。(工学部60代)

■教養教育はつまらなくてもいいと思う。自分で知りたいこと、やりたいことがあればいいのではないかな。読書は色々な意味で大事。自分のレベルを考えて読んでいけばいいと思う。授業を受けて

本を読もうという気にはならなかったもので、学生に本を読ませるには、ペーパー試験のかわりに、指定した本を読んでレポートさせるなどが有効だと思います。(教育学部40代)

■地域や地域企業との結びつきがほとんどなかったので残念。地域を良く見せて、問題を考えさせるのが教養教育に必要と思う。(農学部50代)

■大学では、知識ではなく、生き方を学ばせることが重要なのではないでしょうか。(農学部50代)

■何かを与えるという姿勢の前に、グループでの生活の場を設定することが良いと考えます。何のグループでも良い、合宿生活の経験、又は寮生活が良い結果を出すように思います。(医学部60代)

■学生時代に思想書や文学を中心に多くの読書をこなすように指導していただければ幸いである。(人文学部60代)

■ほとんどの授業がつまらないものであったが、ゼミは別だった。討論、闊論、倒論。これこそ、大学の授業だと感じた。ゼミの準備のため、論破されないよう、読書をした。読書の質、量は、他の授業とは比較にならなかった。(人文学部50代)

■私自身の、そして現在の大学生の読書量を考える時、大切なのは、小学校、中学校時代の読書量とその質ではないかと思う。このアンケートの中に子ども時代の読書に対する質問があったらよかったと思う。そして、また現在の大学生の読書量が少ないのなら、子ども時代に読むはずであった内容の本を紹介してはどうでしょうか。(人文学部50代)

■アンケート用紙に向かいながら、専門科目の講義やゼミ演習で学んだことが、現在の自分にとって大きな財産であると、改めて感じました。専門の内容を学ぶことは、新しい世界が開けていくようで楽しかったです。一般教養と異なり、試験がレポートだったことも、じっくり学べる要因であったように思います。レポートを書くためには読書は不可欠でした。知識を量や点数で測るのではなく質で見えていくことが大切であり、それこそ大学の大学らしいところだと感じます。(教育学部50代)

■読書は個人の意識の問題だと思う。向上心のない人には教養書は読めないだろう。やる気を起こさせる教育が必要ではないでしょうか。(農学部40代)